

船舶事故等調査報告書

平成24年1月26日

運輸安全委員会（海事専門部会）議決

事故等番号	2011横第13号	
事故等種類	乗揚	
発生日時	平成23年1月1日 12時34分ごろ	
発生場所	千葉県銚子市銚子港東防波堤北端 銚子港東防波堤川口灯台付近 (概位 北緯35°45.2' 東経140°51.7')	
事故等調査の経過	平成23年1月20日、本事故の調査を担当する主管調査官（横浜事務所）を指名した。 原因関係者から意見聴取を行った。	
事実情報		
船種船名、総トン数	巡視船 かとり、964.18トン	
船舶番号、船舶所有者等	121873、国土交通省	
乗組員等に関する情報	船長、二級海技士（航海）	
死傷者等	なし	
損傷	右舷プロペラ羽根の曲損及び欠損	
事故等の経過	<p>本船は、船長ほか25人が乗り組み、約12～13ノットの速力で手動操舵により、銚子港へ帰港するために銚子港東防波堤（以下「本件防波堤」という。）西方沖を南進していたところ、左舷船尾に高波を受けて傾斜し、右舷主機が突然停止したことから、左舷主機で港外へ向かうため、舵を左にとり回頭を始めたが、機関制御室内の椅子が移動して‘可変ピッチプロペラ（以下「CPP」という。）遠隔操縦装置の配電盤’（以下「本件配電盤」という。）に当たり、本件配電盤の電源が喪失し、CPPの制御が不能となり、操船が困難となった。</p> <p>本船は、速力が減少して左回頭が止まって本件防波堤の北端を通過した頃、CPPの制御が可能となり、船長が、左舷CPPを前進とし、ほどなく右舷主機が復旧したので右舷CPPを前進としたところ、平成23年1月1日12時34分ごろ右舷プロペラ羽根が本件防波堤北端付近の海中の消波ブロックに接触した。</p> <p>本船は、自力で航行し、船底の調査のために茨城県ひたちなか市常陸那珂港に入港した。</p>	
気象・海象	<p>気象：天気 晴れ、風向 北、風力 5、視界 良好</p> <p>海象：うねり 3、波浪 2</p>	
その他の事項	<p>本船は、2機2軸1舵の船舶であった。</p> <p>銚子海上保安部によれば、本船の右舷主機は、船体が傾斜して潤滑油内に気泡が発生し、潤滑油の圧力が低下したことにより、保護機能が働いて停止したとのことであった。</p> <p>本船の機関制御室内の椅子は、本事故までの荒天下において移動したことがなかった。</p>	
分析	乗組員等の関与	あり
	船体・機関等の関与	あり
	気象・海象の関与	あり
	判明した事項の解析	本船は、銚子港に帰港しようとして本件防波堤

	<p>西方沖を南進中、左舷船尾に波を受けて傾斜して右舷主機が停止した際、左回頭して港外へ向かおうとしたものの、機関制御室内の椅子が移動して本件配電盤に当たり、ＣＰＰ遠隔操縦装置の電源を喪失したことから、ＣＰＰの制御ができなくなったが、本件防波堤の北端付近で右舷主機及びＣＰＰの制御が復旧したので右舷ＣＰＰを前進としたところ、右舷プロペラ羽根が本件防波堤北端付近の海中の消波ブロックに接触したものと考えられる。</p> <p>本船は、機関制御室内の椅子が移動して本件配電盤に当たったことから、椅子を固縛していなかったものと考えられる。</p>
原因	<p>本事故は、本船が、銚子港に帰港しようとして本件防波堤西方沖を南進中、右舷主機が停止した際、左回頭して港外へ向かおうとしたものの、ＣＰＰ遠隔操縦装置の電源を喪失したため、ＣＰＰの制御ができなくなったが、本件防波堤の北端付近で右舷主機及びＣＰＰ制御が復旧したので、右舷ＣＰＰを前進としたところ、右舷プロペラ羽根が本件防波堤北端付近の海中の消波ブロックに接触したことにより発生したものと考えられる。</p>